

子ども会K Y T講習会がなぜ必要か

【K Y Tとは】

K Kiken (キケン)、
Y Yochi (ヨチ)、
T Training (トレーニング) 」

【K Y Tはなぜ生まれたか】

・1980年(昭和55年)から子ども会にK Y Tが採用されたが、そのきっかけとなった事故がある。

・1976年(昭和51年)8月1日、三重県津市の四ツ葉子ども会のハイキング中に小学3年生男子が水死するという事故が起こった。

ハイキングの前に下見をして、溺れるような場所はないことを確認していたが、その男子は指定範囲外で泳いで溺れてしまった。

通称「子ども会裁判(ボランティア裁判)」

・津市河辺町の四つ葉子ども会主催のハイキングにおいて、昼食後の川遊びの最中、参加した小学3年生(9歳)が、指定区域外の深みに入って水死した。

・刑事裁判では無罪が確定した。しかし、民事裁判では子供の過失が8割認められたが、ボランティアである指導者にも責任があると判定された。

◎刑事事件判決

○津簡裁 昭和54年12月6日 刑事事件判決 有罪：罰金5万円、控訴

○名古屋高裁 昭和59年2月28日 刑事事件判決 無罪確定

◎民事事件判決

○津地裁 昭和58年4月21日 民事事件判決

「下見、引率役員3名に対して、526万円余の損害賠償責任」

(父母からの請求は約2500万円、過失相殺8割)

・この事件は、子ども会関係者にとって不幸な出来事であったが、活動中における安全確保の啓発に大きな警鐘となるほか、野外活動などに一時的制約現象がみられたが、地域子ども会に対する一般社会の認識を深める反面もあった。

★ボランティアといえども過失があれば責任を問われることがある

※全国子ども会連合会の記事より抜粋